

緑の相談コーナーだより

NO. 317 2011. 11. 1発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “モチノキ” (藨の木)

～知る人も少なくなった鳥藨^{とりもち}の原料木～

モチノキ科の常緑高木で雌雄異株。5月頃に前年枝の葉腋^{ようえき}に、淡い黄緑色の四弁花を咲かせます。雄花は数個固まってつき、雌花は1～2個ついて、秋遅くなると、球形で1cmほどの果実が美しく紅色に熟し、野鳥の餌となります。暖温帯の樹種で山形県、宮城県から沖縄県までの沿海地や朝鮮半島南部、台湾、中国にも分布します。高さは5～15mになり、幹の太るのも早く、となりの木の枝を包み込んでしまうこともあるそうです。

公園や庭木として植えられており、赤い実と深緑色の葉にふんわりと新雪をかぶった姿はとても風情があるもので、雌木の需要が多く、接ぎ木で殖やしている例が多く見られます。樹形は傘形となり、萌芽力が強く、強度の剪定にも耐え、半陽樹であることから日陰でも育ち、やや湿性の土地を好みます。

モチノキの名の由来ですが、この木の樹皮から鳥藨をつくったことから名づけられました。因みに、昔はこの木の樹皮を剥いで、外皮を除いて水につけ、腐らしてから碎いて水洗いし、赤褐色をしたゴム状のモチを作りました。これを竹の先につけて、鳥の来そうな所に置いておき、野鳥をつかまえるのに用いていました。因みに、モチノキ科の常緑高木の仲間には、やはり鳥藨をとるナナメノキや、枝や葉が黒みを帯びるクロガネモチなどがあります。また、ヨーロッパでクリスマスに飾る西洋ヒイラギは、実はモチノキ科のヒイラギモチです。

材質と用途ですが、材は辺材、心材とも白色かやや緑色がかった散孔材で、収縮と狂いが比較的小さく、仕上げ面には光沢があることから、算盤玉や数珠、櫛などの小器具材として使われてきました。また、



Ilex integra THUNB.
モチノキ

小細工ものや印判、版木などにも愛用されています。樹皮からとる鳥鵲は、小鳥や虫をとるのに使ったり、^{はえ}蠅取紙に用いられました。また、ペンキに混ぜると、乾燥しても塗装面にひびが入らないことから使われています。

もちの花咲くともなくて散りにけり

村上鬼城

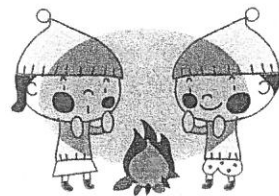
七ツ星光る山家や鵲匂ふ

岡田日郎



公園だより

バラ園



今年は、10月の紅葉がひととき美しく感じられました。しかし今月は、急激に気温も下がって、北風にせかされるように森の木の葉が舞い散り、白鳥も南へ下っていく季節となります。バラ園の裏山も間もなく、寂しい枯れ木立となることでしょう。今年のバラ園は3日にフィナーレを迎え、冬に備えて越冬準備の作業に忙しい毎日となります。冬囲い前の仮剪定と葉むしり、病虫害予防の消毒、雪による枝折れと寒風被害からバラを守るため、結束と被覆作業などが行われます。この時期のバラ園の作業などもご覧頂いて、ご家庭のバラの冬越しの参考にされ、来年の花の季節の到来を待ちたいものです。

♥ 今月のバラ園からの一口メモは、バラの防寒対策についてです。バラは割合寒さに強く、最低気温が -5°C 位になっても大丈夫です。したがって、多雪地帯では雪が降り積もってこの中にバラが入ってしまえば、寒さの害に合う心配はなくなります。現代バラの系統では、特にフロリバンダやポリアンサ系のものは寒さに強いようです。岩見沢近辺などで寒さの害に合うのは、雪に覆われる前の初冬、日中暖かく、夜急に厳しく冷え込む日が続くと凍傷害になることがあります。木肌に紫色の斑点ができ、ひどくなると茎の中心まで茶色に変色します。こうなると春になって枝が腐るキャンカーの原因になります。これを防ぐには、秋はチッソ肥料を抑え、リンサン、カリ、カルシウムなどを充分与え、枝幹を硬く丈夫に育てることが大切です。今年植え付けたばかりの苗は、まだ寒さに対する抵抗性が備わっていないものが多いので、根元20 cm位まで盛り土をしたり、斜めに横倒しして、覆土するなどの工夫をしましょう。

室内公園色彩館では、先月咲いていた赤い曼珠沙華の花が終わって、紅色のサザンカの花が咲き始めました。また、追いかけるようにヤブツバキの蕾がふくらんできております。屋外のバラは3日でクローズですが、館内ではこれからも四季咲き性のバラが開花して、緑の芝生の感触も楽しんで頂けます。

南国温室では、三尺バナナの実がいよいよ収穫期でしょうか？また、四季なりミカンの実やパイアの実も色づいてきました。アンズリュウムやゴクラクチョウカの花が咲き、ここに入ると冬將軍の到来をしばし忘れさせてくれます。

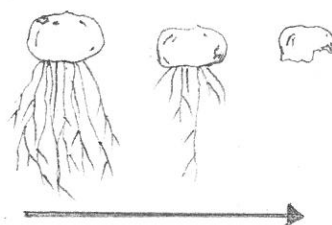
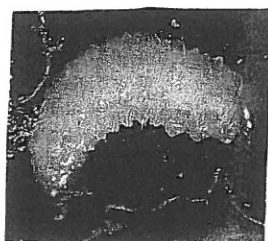
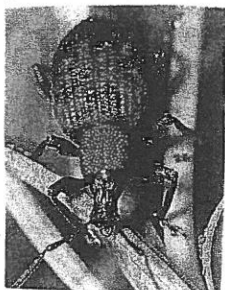
相 談 日 記

問 シクラメンの夏越しについてですが、北海道などの寒冷地では、夏も割合に涼しいことから、戸外で生育させながら管理した方がよいと聞き、今年はそのようにしていました。ところが、秋口頃からだんだんに葉が少なくなって弱ってきたような感じがするので、球根を持ち上げたところ簡単に抜けてしまい、根がほとんどついていません。しかも、鉢土の中には全体が白くてウジ虫を平たくしたような、頭だけが褐色の虫が何匹もいました。この正体は何なのでしょう？また、どのように対処すれば良いか対策などがあれば知りたいのですが。

答 被害の状況から、キンケクチブトゾウムシの幼虫による食害と思われます。日本では、昭和 55 (1980) 年、静岡県 の園芸農場のシクラメンで発見され、被害地域は関東以西に限られると思われてきました。しかし、平成 5 年の夏に札幌市内の花弁栽培農園でもシクラメンの根や球根を食害しているゾウムシが発生し、鑑定の結果、やはり、キンケクチブトゾウムシと同定され、その後北海道でも各地でこの被害が広まっていることが分かってきています。

生態と加害状況 この害虫は、甲虫目・ゾウムシ科に属するヨーロッパ原産の侵入害虫で、観賞植物の移動によって北アメリカ、オーストラリアに侵入し、日本へはアメリカから球根ベコニアの輸入にともなって侵入したとされています。幼虫は 2～6℃以上で発育し、生育温度は 20℃前後のようです。越冬は成虫・幼虫ともに枯れ草や落ち葉の下などで行っています。幼虫・成虫ともに、-5～-6℃の低温でも回復することから、北海道の積雪下の土中では容易に越冬するようです。成虫は体長 8 mm 程度、黒褐色で飛ばず、歩行のみで夜間活動します。成虫・幼虫ともに加害しますが、幼虫による加害が大きく、シクラメンでは幼虫が根や球根を食害し、鉢を移動すると株が横倒しになるくらい大きな被害をこうむります。

防除のポイント 食害された葉には、早期に殺虫剤を散布し、幼虫対策として殺虫用の粒剤を全面散布するか、植え替え時などに殺虫剤を土壌混和しましょう。



キンケクチブトゾウムシ成虫 幼虫

根と球根の食害

仲秋の庭先に咲く淡紫色の美花～シオン 花言葉 追憶・追想



キク科アスター属の多年草で、日本、中国東北部、モンゴル、シベリヤなどに自生する耐寒性の植物です。青紫色の小菊に似た花には、素直で飾らない少女の面影を感じます。遠い日の思い出を懐かしむかのように、見る人に幼い日のことを回想させる花です。山間の草地などに生えますが、ふつう観賞用として、庭園に栽培されます。植物名の由来は、漢名「紫苑」の音読みといわれますが、厳密には本種の漢名ではありません。属名のアスターは、ギリシャ語の aster（星）の意味で、花の形状によります。また、この根は乾燥させ煎じて、咳止めの生薬とします。古く平安時代から栽培され、秋の花の代表的なものの1つとして親しまれてきましたが、栽培には、適度な湿気を保ち、かつ水はけの良い場所が最適です。増殖するには、春に株分けをします。2～3芽ずつ分けて植えるとよいでしょう。

露地の空優しくなりて紫苑咲く

古賀まり子

11～12月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣ 冬の室内植物管理のポイント

日時 11月 6日（日） 13:00～15:00

講師 緑化相談員（樹木医） 泉 征三郎

定員 40人 参加料 無料



♣ クリスマスのアレンジメント

日時 11月 20日（日） 13:00～15:00

講師 中央フラワー協会 伊藤とみ子 さん

定員 40人 材料代 1500円

♣ 冬の写真教室

日時 12月 4日（日） 10:00～12:00

講師 ナチュラル写真家

若林 信男 さん

定員 20人 参加料 無料

♣♥ 今年も市民園芸講座「お正月のアレンジメント」開催に合わせ色彩館では クリスマスのオカリナ・コンサートが開かれます！お楽しみに！

日時 12月 11日（日） 14:30～

編集・発行 北海道グリーンランド（空知リゾートシティ株式会社）

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで